

設 立 趣 旨

現在わが国では、子供たち、生徒たちに対して、どこまで本当の教育がおこなわれているでしょうか。広範囲にわたる教育の中で、重要な位置を占めている理科教育においても、私たちはこの点で大きな不安を抱いています。次の時代を担う国民である児童・生徒たちとその両親たちの、信頼と熱望に、私たちはどこまでこたえているか、ビキニの問題が引き起こした大きな衝動に対して、私たち教師は、正しい科学的解明を教育の場においてなし得たでしょうか。

教師の生活条件も、理科教育のための設備、資材もきわめて悪い今日、このような反省も、いざ実行となると限度へ来ているという声もあるでしょう。けれども眼を広く外にむければ、あまりにも非合理、非科学的なできごとが多すぎはしないでしょうか。

科学の名において健康、生命にもかかわる非科学的なことが国民に強要される事例があるとを絶たないのではないのでしょうか。

このような状態のもとで、教育に求められるのは、きびしい科学的・合理的精神と、祖国・人類への熱い愛情とを、次代を担う児童・生徒の心の中にすくすくと発展させることでありましょう。もちろん、科学的・合理的な精神を培うことは、決して理科教育だけが果たし得るものではありませんが、理科教育がこのために大きな役割を演ずることは確実です。

では現在の理科教育はどうでしょうか。そこでは生徒の自主性と、生活との密接な結合とが尊重され、多くの教師はその実現に努力しつつあります。私たちはこの原則を旧教育にくらべて大きな進歩と考えます。しかし、それにもかかわらず、この原則が正しく実践されているか、科学的・合理的な精神、事実の表面にとどまらず本質を追求する資質を培うことが、実現されているか、この点について私たちは大きな疑問を抱いています。

このような時代に、本当の理科教育をどうすればおこなうことができるか。こうした意欲から、最近教師たちの間に多くの理科教育の研究会がつけられつつあります。それらの方針は決して一定したものではなく、おおよそ次の4つの行き方があるようです。

1. 現行のやり方で何とか努力を重ねること。
2. 戦前のやり方にもどること。
3. 諸外国からよい手本をさがして、そのとおりにやってみること。
4. 日本の現実に足をふまえ、われわれの手で新しい理科教育を創造すること。

このいずれの立場をとるにせよ、日本の将来を心配し、子供たちに正しい理科教育を授けたいという熱意をもっていさえすれば、すべての教師が話しあえるはずで

このような考えから、私たちは、科学教育研究協議会を設立することになりました。

私たちは話し合いの会を開き、また遠く離れているものの間では通信によって広く現場の実践に学び、あるいは戦前・戦後の日本の教育や諸外国の教育の長所を取り入れるとともに、広く民主的な国民教育運動と手を取りあって、日本の現状から一步を進めるよい理科教育を築き上げたいとねがっています。このようにして得られた成果や各サークルの仕事を機関誌紙に発表することによって会員・諸研究会の交流・向上をはかりたいと思

国民が何の心配もなく豊かな生活をいとなめることをねがうすべての教師、父兄、さらに理科教育に関心を持たれる専門家・学生・研究者などが広くこの会に参加されることを心から希望いたします。

1954年11月28日

科学教育研究協議会設立総会